



虹の架け橋

平成31年1月25日
印西市立西の原小学校
校長室便り No. 19

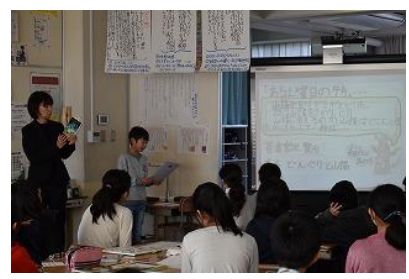
読書の世界～研究授業を通して～

西の原小学校では、今年度から国語科の授業研究に取り組んでいます。1月23日（水）、3回目となる校内授業研究会を行いました。展開学級は2年3組と5年1組です。

2年3組では、レオ＝レオニの作品を読み、気に入った作品を1年生に読み聞かせるという学習を行いました。読み聞かせをするために、音読名人になろうという目標をもった子どもたち。音読名人になるためには、間違えずにはっきりとした声ですらすら読めるようにすることが重要です。また、場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読することも大切です。そこで、教科書教材「アレクサンダとぜんまいねずみ」では、場面の様子や人物の気持ちを読み取り、それらが目に浮かぶように音読することを目標に取り組みました。研究授業でも、想像を膨らませてアレクサンダやウィリーの気持ちを考え、音読で表現する児童の姿が見られました。この後、自分が選んだレオ＝レオニの作品の読み聞かせ練習に入ります。習得した音読名人のコツを、読み聞かせでもきっと生かしてくれることでしょう。



5年3組では、宮沢賢治の作品を読み、気に入った作品をポップに書いて友達に紹介するという学習を行いました。教科書教材「雪わたり」から、物語の読み方、作品の魅力などの表現の仕方を学び、賢治の他の作品のポップ作りに活かしました。子どもたちが書いたポップには、キャッチコピーやあらすじ、特徴的な表現の引用など、作品を読んでみたくなるような工夫がそこかしこに見られました。そして、どのポップからも賢治の作品への愛着が感じられました。後で担任の先生から、驚くほど賢治の作品に読み浸っていた子どもたちの様子を聞き、大変うれしく思いました。



二つの学習の展開から、子どもたちの読書の世界が今まで以上に広がった様子が見られました。これからも、子どもたちが読書の世界を広げ、本を通して友達と対話し、それぞれの思いを深めていけるように授業改善に取り組んでいきたいと思います。